

園長のまなざし

第9回

目と眼で通じ合う 確かな成長と信頼感

—運動会を通して—

鳩山多加子

夏が過ぎると、もう少して運動会。

踏ん張る足、リズムカルに動かす体、食いしぼる表情、バトンの受け渡しの真剣なまなざし。子どもたちは、運動会を通して、一人ひとりの力を発揮し、友達や先生と励まし合い、達成感や充実感を体験して、心も体も一段とステップアップしていきます。

私が子どもたちと「目と眼で通じ合う」成長と信頼を感じるのは、毎年運動会のころからです。

広い園庭で年長組が先頭になり、入場行進で本部に向かい前進してくる時、先頭の一人ひとりの子どもたちに「大丈夫?」「よろしくね」という気持ちを込め、視線を送り軽くうなずくと、「大丈夫だよ」「任せ」という表情でうなずき返してきます。この何とも言えない感覚は、園長冥利に尽きる瞬間でもありません。

自分を信じる心、成長からくる自信。教師のこれまでの指導の苦勞や努力。沢山の保護者の方々の我慢や



協力。などが走馬灯のように浮かび、立場上、その場で、大泣きできませんが、感激であふれてくる涙がこぼれ落ちないように、大きく目を開き、空気で涙を乾燥させている私です。

「目と眼で通じ合える」のは、相手との間に遠い空間があっても持続できる気持ちの育ちが心と心をつなぎ、大好きな先生や友達と一緒にできる喜びや楽しさが、人への信頼感を生み、主体的な行動をはぐくむ成長の姿と重なりあうからだと思います。

企業で言うなら下半期に実施される運動会。子どもたちの成長、保護者の協力、教職員のチームワークなど、さまざまな面からの園経営に成果が評価される大きな行事の一つです。

まなざしの中の安心感、見つめる、見守る、見守られる安心感。誰もが安心感をもち幼稚園生活が送れるような園経営を進めたいと、新たに決意するひとときです。

(文京区立第一幼稚園園長)